

## 地質調査所研究資料集

この資料集は、地質調査所資料室(電話(0298)54-3605)で閲覧できます。

### 地質調査所研究資料集 No.219

山田直利(編集 1979)(1995)

100 万分の 1 日本地質図(第 2 版)書評・紹介, 32 p.

内容紹介

1978 年に地質調査所から出版された 100 万分の 1 日本地質図, 第 2 版の書評・紹介記事を編集した。今後の編さん等に役立つ資料である。

### 地質調査所研究資料集 No.220

S. Murao, S. H. Sie, G. Dejidmaa and K. Naito(1995)

PIXE Probe Analysis of Mongolian Gold Grains. 5 p., 3 figs., 2 tables, 1 plate. (所員のみ利用可)

### 地質調査所研究資料集 No.221

当舎利行・杉原光彦・西 祐司(1995)

1988 葛根田地震リスト, 2 p., 3 figs., 148 tables.

内容紹介

葛根田地熱地帯は、岩手県盛岡市の北西方約 40 km, 岩手郡磐石町の葛根田川流域にある。ここでは、地熱活動に伴って人体に感じない微小～極微小地震が多発しており、年間 7000 個以上の微小地震活動が観測されている。地質調査所では、1982 年に工業技術院の「還元メカニズムの研究」で創設された微小地震観測網を引き継ぎ、観測点を強化しつつ観測を継続した。当初、4 地点の観測点で開始されたが、1987 年 12 月には新しい観測点が増強されて 8 地点観測となった。

この地震リストは、1988 年 1 年間に葛根田地熱地帯で発生した地震を 8 地点の地質調査所微小地震観測網により観測・記録し、震源計算プログラムにて震源計算を行った結果である。1988 年は比較的欠測の少なかった年であるが、1, 8, 10, 11 月にそれぞれ数日間の欠測があった。その欠測の期間を除いて最も地震が発生したのは 10 月 15 日で、1687 個の地震が観測された。また、6 月の中旬にも地震が多発する時期があるが、これは地熱発電所の定期点検に伴う生産井の停止による圧力変動の結果と考えられる。

震源は、ほぼ葛根田川に沿う北西—南東方向に延びた形で分布している。地熱地帯の中心部よりも南東側では浅い地震が多く、北西側では深い地震が多く発生している。葛根田では、同じところで繰り返し地震が起こっているため、この 1988 年 1 年間の震源分布は他の年でもほぼ同じような分布図が得られる。

### 地質調査所研究資料集 No.2236

田老鉱業所採鉱課(1954)

岩手県田老鉱山の概要—採鉱関係, 20 p., 1 fig.

内容紹介

位置は岩手県下閉伊郡田老町大字末前字鈴子沢, 山田線宮古駅の北方 24 km, 鉱山の沿革・地質・鉱床・採鉱法・設備など全般にわたる概要を記述。(青焼きコピー)

### 地質調査所研究資料集 No.2237

日本鉱業蜂之沢鉱業所(1958)

静岡県峰之沢鉱山の地質及び含銅硫化鉄鉱床. 31 p., 8 figs., 4 tables.

内容紹介

鉱床は中央構造線と赤石列線に挟まれた地帯の結晶片岩中に胚胎。規模は走向延長約1500 m, 傾斜延長約220 m, 厚さ最大15 m, 平均4 m。鉱石は主に黄鉄鉱・閃亜鉛鉱・磁鉄鉱・赤鉄鉱。(謄写印刷)

#### 地質調査所研究資料集 No. 2238

上野三義(1959)

福島県塙町東部地区の長石・珪石鉱床調査報告. 23 p., 1 fig.

内容紹介

調査は1959年2月13日-15日。位置は福島県東白川郡塙町那倉・松塚・片貝一帯。鉱床は御在所・竹貫変成岩を貫くペグマタイトで一般にカリ長石を60%以上含む。規模は走向延長10-30 m, 傾斜方向20-30 m, 推定鉱量500-3000トン。また石英に富む部分は珪石鉱床として稼行。(和文タイプ)

#### 地質調査所研究資料集 No. 2239

丸山修司(19 XX)

鳥取県下の鉱床分布図. 5 figs.

内容紹介

20万分の1地形図にプロットした鉱床分布図。

#### 地質調査所研究資料集 No. 2240

和田利雄(1947)

熊本県八代郡河俣村河俣鉱山石綿鉱床調査報告. 14 p.

内容紹介

調査は1947年6月29日から2日間。位置は熊本県八代郡河俣村字天水, 鹿児島本線有佐駅の南東直距約12 km。蛇紋岩中の網状又は脈状の割れ目充填鉱床。延長約700 m, 幅平均15 cm。鉱石は蛇紋石質温石綿。SiO<sub>2</sub> 39.40%, Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 1.06, Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 6.67, MgO 36.84, K<sub>2</sub>O 0.5, Na<sub>2</sub>O 0.08, H<sub>2</sub>O+ 16.55, Total 99.90。(手書き)

#### 地質調査所研究資料集 No. 2241

浜地忠男・木下章(1947)

長崎県日鉄調川鉱業所耐火粘土調査報告. 14 p.

内容紹介

調査は1947年6月2日-5日。位置は長崎県北松浦郡調川村白井免, 松浦線調川駅の南方約4 km。表土直下の粘土層で、一部に炭質物を含む。耐火度はSK 30-35。化学分析値・熱分析値などがある。(手書き)

#### 地質調査所研究資料集 No. 2242

山田正春(1956)

島根県蔵木磁鉄鉱山及び周辺地区地質鉱床概査報告. 24 p., 2 figs.

内容紹介

調査は1956年8月17日から12日間。位置は島根県鹿足郡六日市町蔵木字金山谷, 最寄り駅は山陽本線岩国。鉱床は古生層とこれを貫く石英斑岩との接触部付近に胚胎。規模は走向延長約10 m, 傾斜延長約7 m, 幅最大2 m。鉱石は主に磁鉄鉱, スカルン鉱物を伴う。ほかに周辺の高根・大谷各

鉛床の記載がある。(手書き)

**地質調査所研究資料集 No.2243**

谷 正巳・服部富雄・桂島 茂(1957)

山形県唐戸屋鉛山銅・鉛・亜鉛鉛床調査報告。32 p., 6 figs., 1 table.

内容紹介

調査は1957年6月24日-7月17日。位置は米沢市大字山梨沢、奥羽本線米沢駅の南南西直距11.6 km。鉛床は第三紀中新統の頁岩と石英粗面岩との境界に胚胎される黒鉛式。脈幅は1 m。品位は最大0.35% Cu, 18.33% Zn, 5.42% Pb。(和文タイプ)

**地質調査所研究資料集 No.2244**

岸本文男・加藤甲壬(1960)

北海道北見国中興部鉛山における水銀鉛床の産状と地球化学的探査。39 p.

内容紹介

調査は1960年7月。位置は北海道紋別郡西興部村中藻興部、名寄本線瀬戸牛駅の東北東直距4 km。鉛床は輝石安山岩中に脈状に胚胎するものと堆積層中の砂鉛とがある。鉛石は辰砂。地化学探査法がきわめて有効。(和文タイプ)

**地質調査所研究資料集 No.2245**

岸本文男(1961)

北海道北見国輝州(中興部)鉛山水銀鉛床調査報告(その2)。18 p.

内容紹介

調査は1961年5月-6月。地化学探査の結果をもとに試錐を実施して品位0.2% Hgの鉛体を確認。(和文タイプ)

**地質調査所研究資料集 No.2246**

梅本 悟・高橋 清(1951)

鳥取県岩美鉛山の沈澱銅採取に関する調査。29 p., 4 figs.

内容紹介

調査は1951年10月15日-29日。位置は鳥取県岩美郡小田村荒金、山陰本線岩美駅から9 km。鉛床は第三紀石英粗面岩中に胚胎。鉛石は主に黄銅鉛。沈澱銅の採集方法及び原水の化学組成などについて記述。(手書き)

**地質調査所研究資料集 No.2247**

木村 正・岸本文男(1962)

宮城県釜谷金銀鉛床調査報告。17 p., 5 figs.

内容紹介

調査は1962年10月16日-24日。位置は宮城県桃生郡河北町及び雄勝町、最寄り駅は仙石線石巻。鉛床は三疊紀稲井層群中の含金銀石英脈。幅は平均10 cm。品位は平均4-20 g/ton Au, 25 g/ton Ag。(和文タイプ)

**地質調査所研究資料集 No.2248**

河田茂麿(1959)

長野県南佐久郡白田町大字丸山珪砂鉛床調査報告。13 p., 3 figs.

内容紹介

調査は1959年9月4日-10日。位置は長野県南佐久郡白田町大字丸山赤谷，小海線三反田駅の東方直距5 km。鉱床は古生層の砂岩が貫入した閃緑岩による熱変成が粒状化したもの。(和文タイプ)

**地質調査所研究資料集 No.2249**

武司秀夫・岡野武雄(1958)

福島県安達太郎鉱山耐火粘土調査報告。23 p., 1 fig.

内容紹介

調査は1958年6月13日-17日。位置は福島県安達郡大玉村，安達太郎山頂の南東方直距約1.5 km。安達太郎火山の後火山熱水・噴気作用によって生成したカオリン鉱床。化学組成は51.68% SiO<sub>2</sub>，34.02% Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>，11.59% H<sub>2</sub>O+。耐火度はSK 36。(和文タイプ)

**地質調査所研究資料集 No.2250**

北村 信・丸山修司(1951)

青森県・秋田県岩館炭田調査報告。23 p., 3 figs., 2 tables.

内容紹介

調査は1951年8月-9月。位置は青森県西津軽郡岩崎村字大間越，同郡深浦町追良瀬川上流，及び秋田県山本郡岩館村字岩館，最寄り駅は五能線松神・大間越・椿。新第三紀中新世緑色凝灰岩中に胚胎する石炭鉱床。炭丈は30-70 cm。炭質は弱粘結性瀝青炭。発熱量は2500-7500 cal。埋蔵炭量は42万7千トン。(和文タイプ)

**地質調査所研究資料集 No.2251**

佐々連鉱業所採鉱課調査係(1962)

佐々連鉱山地質鉱床の概要。19 p., 7 figs., 4 tables., 2 plates.

内容紹介

位置は愛媛県伊予三島市金砂町，予讃本線伊予三島駅の南方約7 km。佐々連鉱山の沿革・地質と鉱床・銅量の分布及び鉱石中の微量成分などについて記載。(活版印刷)

**地質調査所研究資料集 No.2252**

岡野武雄(1960)

山形県滑川褐鉄鉱山調査報告，16 p., 3 figs.

内容紹介

調査は1960年11月26日-12月5日。位置は山形県米沢市大字大沢，奥羽本線峠駅の南方直距約5 km。第三紀石英粗面岩・同質凝灰岩・石英安山岩などを基盤岩とした沈澱及び交代鉱床。鉱石は褐鉄鉱。厚さは10-13 m。品位は平均54-56% Fe。確・推定鉱量は約20万トン。(手書き)

**地質調査所研究資料集 No.2253**

井上秀雄(1963)

長野県下高井郡内山村佐野鉱山の葉鱗石鉱床。14 p., 2 figs.

内容紹介

調査は1963年10月。位置は長野県下高井郡内山村字佐野，最寄り駅は長野電鉄湯田中。鉱床はひん岩中の流理面に沿う熱水によって生成。規模は露天で径35 m×25 m，深さ約30 m。鉱石は主に葉鱗石。推定可採鉱量は3800トン。(和文タイプ)

**地質調査所研究資料集 No.2254**

藤井紀之(1963)

長野県梵天蠟石鉱床について。18 p., 2 figs.

内容紹介

調査は1963年10月。位置は長野県更埴市八幡町中原の南方、信越本線屋代駅から8 km。鉱床は新第三紀中新世後期の複輝石安山岩及び同質火山碎屑岩類の熱水変質によって生成。鉱石は主にパイロフィライト。鉱量は推定1万7千トン、予想11万6千トン。(和文タイプ)

地質調査所研究資料集 No.2255

大津秀夫(1964)

山形県熊の返山周辺地域地質鉱床概査報告。34 p., 2 figs.

内容紹介

調査は1964年8月3日-12日。位置は山形県新庄市・尾花沢市・舟形町・最上町の一帯。新第三紀の黒鉱式鉱床・鉱脈鉱床が「新庄玉造鉱化帯」を形成。大堀(銅鉛亜鉛)・杉の入(ノ)・福舟(銅)・大旺尾花沢(銅硫化)の各鉱床が産出。(和文タイプ)

地質調査所研究資料集 No.2256

地質調査所四国駐在員事務所(1964)

四国大理石鉱山分布図。1 fig.

内容紹介

50万分の1分布図を収録。

地質調査所研究資料集 No.2257

大津秀夫(1965)

岩手県土畑鉱山北部地域地質鉱床調査報告。55 p.

内容紹介

調査は1965年8月-10月の延べ40日間。位置は岩手県和賀郡湯田町。主に鉱床周辺の花崗岩質基盤岩及び新第三系の記載と地質構造について記載。(和文タイプ)

地質調査所研究資料集 No.2258

大津秀夫・五十嵐俊雄(1963)

琉球の銅・金および石灰石鉱床調査報告。123 p., 24 figs.

内容紹介

調査は1963年4月9日-5月18日。地質および金属・非金属資源の概要、沖縄本島北部・慶良間諸島座間味・久米島南部西表島高那各地域の銅鉱床、久米島中部の金鉱床、沖縄本島本部半島の石灰石鉱床、およびトラバーチンとコーラルリーフロックについて記載。(和文タイプ)

地質調査所研究資料集 No.2259

藤井紀之(1965)

福岡県山田市の粘土質原料資源。14 p., 4 figs., 1 table.

内容紹介

調査は1965年11月。位置は福岡県山田市堤・唐人谷・猪之鼻地区、最寄り駅は上山田線上山田。古第三紀層中の耐火粘土鉱床。鉱石は主にカオリン・石英、モンモリロナイトを伴う。耐火度はSK 27。用途はタイルブロック。鉱量30万トン以上。(和文タイプ)

地質調査所研究資料集 No.2260

高島 清・徳蔵勝治(1950)

静岡県湯ヶ島鉱山金・銀鉱床調査報告, 27 p., 1 fig.

内容紹介

調査は1950年11月。位置は静岡県田方郡上狩野村湯ヶ島, 最寄り駅は伊豆箱根鉄道修善寺。鉱床は新第三紀中新世輝石安山岩類中の割れ目充填含金銀石英方解石脈, 規模は走向延長100-350 m, 傾斜延長40-120 m, 幅0.5-2.0 m, 品位は4-10 g (最大50 g)/ton Au, 33-80 g (最大600 g)/ton Ag. (手書き)

地質調査所研究資料集 No. 2261

地質調査所(1956)

放射性鉱物分布図, 1 fig.

内容紹介

200万分の1分布図を収録。(青焼きコピー)

地質調査所研究資料集 No. 2262

中沢次郎・藤本弁蔵・伊藤 優・宇野沢 昭(1960)

大谷石採石場付近の災害防止のための基礎調査, 50 p., 22 figs., 1 table.

内容紹介

調査は1960年11月21日-12月11日, 採掘場11箇所における308箇所の断裂系を測定。その主要方向はN 45°-50°WとN 60°-65°Eの2系統で, これをもたらしした運動は東西及び南北の2方向。(和文タイプ)

地質調査所研究資料集 No. 2263

鈴鹿恒茂・日下部吉彦・辻岡加四郎・宗森一郎・吉本 淳・藤井清司・松山幸弘(1963)

福井県南条郡今庄町, 南条村珪石鉱床調査報告書(第1集), 20 p., 5 figs.

内容紹介

位置は福井県南条郡今庄町, 北陸本線今庄駅と湯ノ尾駅を結ぶ地区の一带。古生層チャート中の白珪石鉱床, 最大規模は走向延長5000 m以上, 厚さ700 m, 高さ150 m, 品位は94.22-97.46% SiO<sub>2</sub>, 0.72-3.50% Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, 0.88-1.40% Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>. (謄写印刷)

地質調査所研究資料集 No. 2264

鈴鹿恒茂・日下部吉彦・飯田秀雄・柘植方雄・松山幸弘(1964)

福井県南条郡今庄町, 南条村珪石鉱床調査報告書(第2集), 16 p.

内容紹介

福井県南条郡今庄町藤倉山南部・焼尾山・湯尾の各地区, 及び同郡南条村山山東部地区の, それぞれ古生層チャート中の白珪石鉱床について記載。(謄写印刷)

地質調査所研究資料集 No. 2265

上野三義・河田茂麿(1957)

福島県大沼郡滝谷地区における所謂「カリ石英粗面岩」の分布と地質図, 1 fig.

内容紹介

位置は福島県大沼郡柳津町, 会津線滝谷駅の南方直近から16 kmの範囲。地質図にK<sub>2</sub>Oの含有量が記入してある。

地質調査所研究資料集 No. 2266

上野三義(1951)

広島県勝光山地域の葉蠟石鉱床概要。26 p., 9 figs.

内容紹介

調査は1950年-1951年。位置は広島県比婆郡山内北村字川北、最寄り駅は芸備線備後庄原。石英粗面岩を母岩とする熱水交代鉱床。規模は東西約1.2 km, 南北約1.5 km, 上下400 m, 鉱石は主に葉蠟石, ダイアスポアを伴う。耐火度はSK 30-35。鉱量は確・推定約165万トン, 予想約238万トン。(和文タイプ)

地質調査所研究資料集 No.2267

野村鉱業イトムカ鉱業所(19 XX)

イトムカ水銀鉱山地質案内書。14 p., 2 figs.

内容紹介

鉱床は新第三紀変質安山岩中に胚胎。規模は走向延長40-180 m, 傾斜延長40-210 m, 幅平均1.6-2.5 m。鉱石は自然水銀・辰砂。鉱床と地質構造の関係, 鉱化作用, 及び探鉱・試錐についても記述。(謄写印刷)

地質調査所研究資料集 No.2268

野村鉱業イトムカ鉱業所(19 XX)

イトムカ鉱業所概要。12 p., 5 figs.

内容紹介

位置は北海道常呂郡留辺蘂町字富士見, 石北本線留辺蘂駅の西方37.5 km。鉱床は新第三紀変質安山岩中に胚胎。規模は走向延長40-90 m, 傾斜延長20-150 m, 幅平均1.5-3.0 m。探鉱・生産行程・年度別生産量・従業員数・福利施設・水銀の用途などについても記述。(活版印刷)

地質調査所研究資料集 No.2269

和田利雄・浜地忠男・井上秀雄(1949)

大分県北部津久見町, 南津留村, 大野郡田野村, 川登村, 苦灰岩鉱床調査報告。32 p.

内容紹介

苦灰岩鉱床は秩父古生層の石灰岩を交代したものの。規模は走向延長最大1 km。品位は17% MgO。推定鉱量は105万トン。(手書き)

地質調査所研究資料集 No.2270

五十嵐俊雄(1972)

栃木県益子町の粘土鉱床。28 p., 1 fig.

内容紹介

調査は1972年。位置は益子町南半部。粘土鉱床は下部更新統砂礫層中に胚胎。大部分が湖成堆積物。厚さは通常3-5 m。粘土の電子顕微鏡写真を収録。(手書き)

地質調査所研究資料集 No.2271

武市敏雄(1952)

島根県匹見鉱山鉛亜鉛鉱調査報告。22 p., 1 fig.

内容紹介

調査は1952年8月20日-31日。位置は島根県美濃郡匹見下村字内石付近, 山陰本線石見益田駅の南南東直距約15 km。鉱床は石英粗面岩の割れ目を充填して胚胎。規模は走向延長2-5 m, 傾斜延長約20 m, 幅約1 m。鉱石は主に閃亜鉛鉱, 方鉛鉱・黄銅鉱を伴う。品位は約13% Zn, 5-7% Pb, 約1% Cu。(手書き)

地質調査所研究資料集 No.2272

地下資源協会(1951)

鳥取県気高郡鹿野鉾山絹雲母調査報告. 89 p., 30 figs., 2 tables.

内容紹介

調査は1951年7月11日-8月14日。位置は鳥取県鹿野町、山陰本線浜村駅又は宝木駅の南方約5 km。鉾床は浅熱水作用による珪化帯に約50本の鉾脈として産出。各鉾脈の規模は走向延長最大30 m、幅1-3 m。鉾石は主に絹雲母、黄鉄鉾を伴う。推定・予想鉾量は約1万3千トン。(手書き)

地質調査所研究資料集 No.2273

松本隆一・土井啓司(1951)

広島県瀬戸田鉾山重石調査報告. 6 p., 1 fig.

内容紹介

調査は1951年。位置は広島県豊田郡北生口村名荷村。鉾床はペグマタイト脈中に胚胎。規模は幅1-2 m。鉾石は鉄マンガ重石。品位は平均1% WO<sub>3</sub>。予想鉾量1125トン。(和文タイプ)

地質調査所研究資料集 No.2274

北 卓治(1953)

広島県芦品郡父尾鉾山銅鉾調査報告. 24 p.

内容紹介

調査は1953年3月1日-3月12日。位置は広島県芦品郡藤尾村父尾、福塩線新市駅の北方8 km。鉾床は粘板岩中の割れ目充填鉾脈。鉾石は黄銅鉾・方鉛鉾・閃亜鉛鉾・磁硫鉄鉾・黄鉄鉾。記録によれば鎌倉・室町時代に金銀鉾を産出した。(手書き)

地質調査所研究資料集 No.2275

北 卓治(1953)

鳥取県金足鉾山白珪石新鉾体の精査報告. 11 p.

内容紹介

調査は1952年。石英脈を主体とする鉾床。規模は走向延長約120 m、傾斜延長約60 m、幅最大45 m。品位は98.80-99.50% SiO<sub>2</sub>。確・推定鉾量は約63万トン。(手書き)

地質調査所研究資料集 No.2276

塚脇祐次(1957)

大阪府勝尾寺鉾山銅鉛亜鉛鉾調査報告. 11 p., 1 fig.

内容紹介

調査は1957年1月の2日間。位置は大阪府三島郡豊川村。鉾床は閃緑岩の割れ目充填鉾脈。鉾石は黄銅鉾・閃亜鉛鉾・方鉛鉾、藍銅鉾を伴う。品位は2.51% Cu, 6.69% Zn, 6.72% Pb。(手書き)

地質調査所研究資料集 No.2277

白井六蔵・横山佐蔵・矢野輝夫・古畑明二(1957)

兵庫県川上銅鉾山診断報告. 12 p., 1 fig.

内容紹介

調査は1957年1月29日-2月2日。位置は兵庫県神崎郡大河内町、播但線長谷駅の北北西約7 km。鉾床は花崗閃緑岩中の割れ目充填鉾脈。規模は走向延長300 m、幅3-10 cm、最大30 cm。品位は1-1.5% Cu。推定鉾量2500トン。(和文タイプ)